

「絆」トーク



Naoki Ogi

教育評論家 尾木 直樹 先生



Minekazu Izumi

米原市長 泉 峰一

教えて尾木先生！

「まいばらふるさと大使」としてご活躍いただいている「尾木ママ」こと教育評論家の尾木直樹先生に、市民のみなさんからの質問にお答えいただきました。

子育てを通じた地域の元気づくり・絆づくりについての泉市長とのトークを、伊吹山テレビ新春特番のダイジェストでお届けします。

今みたいな良いスキーではなく、竹を割ってチューブみたいなものをつけて長靴で滑っていたんですが、これでも快感だったんです。そして、夏になると川やため池へ魚釣りに行ったり、山へアケビ採りに行ったりと、とにかく自然が遊び場でした。今みたいにゲームとかはなかったけど、棒切れとボールがあれば友だちと遊べたの。何だっ



僕が小学生の頃は50年以上前の大昔のことですが、住んでいた伊吹地域はとても雪が多かったんです。だから、スキーがものすごく盛んだっただけです。

僕はホッケーを頑張っています。尾木先生が子どものときに熱中したことや、子どもの頃の将来の夢を教えてください。



教えて尾木先生！

高木 勇弥 さん
春照ホッケースポーツ少年団



そういうものが地域にあるって素晴らしいことですね。

米原市は国体が開催されて以来、ホッケーが根付いて全国大会で優勝もされていますが、市としても応援したいですね。



子どもが夢に向かう姿は、大人も元気をもらいますね。私は中学校でバレーボール部に入りましたが、勝った時の感動や負けた時の悔しさ、辛抱して練習しようという気持ちは、やっぱり大人になってもちゃんと生きてくると思います。

しかなかったのよ。じゃあ夢はなんだったかって言うと、やっぱりスキーが得意だったし、小学校の高学年とか特に中学生になった段階では、スキーの選手になりたいっていう夢がありましたね。それから、本を読んだりするのが結構好きだったし、国語が得意だったんですよ。だから児童文学者になろうっていう夢も持っていましたね。夏休みの自主的な作文とか宿題では、詩集とかを自分で作っていましたよ。

子育てに積極的なお父さんが「イクメン」としてブームですが、尾木先生はイクメンでしたか？

教えて尾木先生！

北澤 あさこさん
劇団「プラネットカンパニー」



もうね、質問そのものは元祖イクメンよ。2人の子どもを育てたんですけれども、特に上の子なんかは、授乳からおしめ替えから保育園の送り迎えまで、ほとんど僕がやりました。なぜかと言うと、うちの女房も働いていて、職場が遠くて、僕の方が近かったんですよ。

料理もはつきり言って僕の方が多かったの。学生時代に自炊生活をやったからレパートリーも多かったし、苦でもなかったの。みんなが喜んでくれてうれしかったんですよ。

ただね、僕も子育てをやったからすごくわかるんですけど、お母さん方は本当に色んなストレスを抱えていますね。やっぱり一人でやっている、ちょっとしたことがものすごく不安になるの。泣きやんでくれなかったりとか、ミルクをなかなか飲んでくれなかったりするでしょ、そしたら「何か悪いのかなー」と思ったり、色んな不安ばかりよぎってくるわけ。

そういうときに大事だと思ったのは、保育園の先生だとか子どもが同じクラスのお母さんとかに、「どうしたんだろう」とって相談できる仲間がいるっていう子育て環境。僕らのころはそれに支えられてきたけど、今それが切れちゃってる社会の中では、これは辛いだろうなって思いますよね。

だから、イクメンっていう意識改革が重要なのは大前提ですが、やっぱり支えてくれる地域とか、行政のちょっとしたバックアップがすごく欲しいなって気がします。



今でいうイクメンかどうかはわかりませんが、私は夜中に子どもが泣きやまないとき

はあやしたりしてましたね。少し大きくなると妻に叱られてシウンとしているのをなだめにいくとか。やっぱりちょっと逃げ道を作ってあげることは大事だと思います。両親二人一緒になって叱っていたのでは、ちょっとかわいそうな感じがしますの、私はなだめ役でしたね。

そういう風に、お父さんがバイパス役をやるとすごくいいんですよ。



それから、尾木先生が子育てで失敗したなって思うことはありますか？

教えて尾木先生！

川北 勝平さん
3人の子育てに奮闘中



というのも、うちの子はあまりテレビを見ないし、チョコレートも食べないから、「うちの子は立派だな」と思ってたの。だって、僕は絶対に押し付けてませんから。



押し付けじゃなく、子どもから「やりたい」と言わせたいところが、今の若いお父さんは素敵ですね。

これはね、結構簡単ですよ。例えばお父さんが地域のチームを作るのを手助けするとか、コーチをやるとか、お父さんが関わってイキイキとしていれば、「お父さんが楽しそうにやってるから僕もやりたい」となってくるわけ。

だから、子どもだけにやらせておいて自分は仕事に専念するっていうのは、これはちょっと甘いかな。お父さんも一緒に楽しんで、チームのために貢献したり、地域づくりに大事な役割を果たしているっていう、そこを抜きにしたらダメよ。

それから、「失敗した」なんて、あんまり言いたくないけど、やっぱり子育てでパーフェクトはないです。僕なんか自分で採点すれば、60点か61点のギリギリの合格ラインだと思います。

そうしたら、子どもが大学生のとき、徹夜でテレビを見ながら大きな袋のチョコレートを全部食べていたんです。びっくりして「どうしたの」って聞いたら、「だってテレビ嫌いと、か、チョコレート嫌いとかが言うつと、お父さんもお母さんもうれしそうな顔してた」って言うんですよ。「いくら言葉で『いいんだよ』って言うつていても、なんか目がうれしそうだった」つて。

これはきつかったですよ。こういうのを「イイ子症候群」つて言つて、親が喜ぶように演じてきますから気をつけた方がいいですよ。やつぱり親も、「1時間くらいならテレビ見たつていいじゃない」と、本気で思つていないと子どもに見抜かれま

す。 こういうことを、僕は教育評論家として専門家だから、講演で話したり本に書いたり、理論的にもそうだとわかつているのに、自分が失敗してるわけですよ。本当にポロポロ泣きましたもん。

だからね、親が子どもに押し付けないというさつきのお父さんの考えは大賛成。だけど、本気で心で思つていうことがとても大事ですね。



先生が言われたように、押し付けがダメだということと、親が楽しくやつていることは見習おうとするということ、共感で

きますね。 私も米づくりをしていましたが、自分が楽しくやつているんだから子どもも連れていつて積極的にその姿を見せるべきじゃなかったかなと、今になって思います。みんながそうしていれば農業離れも起きないかも

昔の親は自分の背中を見せ、そして子どもは親の背中をみて成長してきましたが、現代は親の育て方が変わってきたように思います。

こういった中、地域で育てるうえで、もっとも大切なことはどんなことでしょうか。

教えて尾木先生!

森 鈴子 さん
「どろんこ農園」で子育て支援



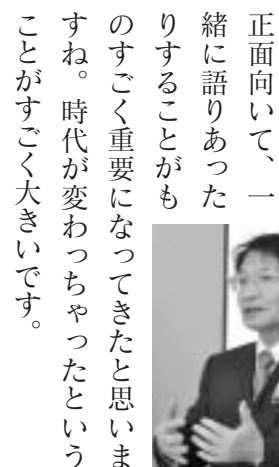
森さんがおっしゃったように子どもは親の背中を見て育つていったんですけれど、なぜ昔はそれができたのかつて言うつと、70年代くらいまでは農業中心で生活していて大家族で住んでいたし、みんな地域があつたわけですよ。親はもちろん、おじいちゃん・おばあちゃんもいるし、ご近所のおじいちゃん・おばあちゃんも、みんなつながつてるわけですよ。

そんな中でいろんな大人の正面や背中を見て、大人つてものがわかつてきたし、いろんなモラルも伝わつてくるわけですよ。だから、お父さんは一生懸命仕事して背中を見せていれば安心だったんです。

ところが、今はそれがなくなつて、閉鎖されたひとつのマンションの部屋の中に各家庭が分断されてきたでしょ。そういう中では、お父さんの背中を見ていただけではだめになつてきて、正面向き合わなくてはいけない。

しかも、今はマスクミヤインターネットが発達して、様々な情報がありアルタイムで入ってくるから、お父さんの背中を見せているだけでは、吹き飛んでいくような時代なんです。

だから、横並びで、ときには正面向いて、一緒に語りあつたりすることがものすごく重要になつてきたと思いま



すね。時代が変わつちやつたということがすごく大きいです。 それに、大人同士もつながりあつていけない中で、社会全体の安心・安全も崩壊して、勝手に子どもを外に遊ばしておくわけにはいかない。だから、わかつていてもできないところもあつて、二重三重に、親にとつては厳しい環境ですよ。



尾木先生の話で、今は難しい時代になつてきたということですが、幸いにも米原市ではまだ地域の絆は薄れていないと思つています。高齢者のみなさんが、自分の孫ではないけれども一緒に子育てに参加されている光景も、地域にありますね。

こういった面をもつと広げていけるといいと思つています。



そうですね。米原市の特徴ですね。良さですね。



東日本大震災で「釜石市の奇跡」と言われている学校があるんです。震災が発生したとき、生徒は学校ではなく地域にいたのに、後で点呼してみたら、全員無事だったんですよ。釜石っていうのは壊滅的な打撃を受けたところなのに。

しかも、子どもたちは自分の命を守っただけじゃなくて、弟の命を守ったりおばあちゃんを助けたり、とにかくそれぞれところで初対面の人同士もみんな絆を結びあつてたっていうんですよ。絆がどんな場面でも大事なんだということをお今回の震災を通して学びました。

国際的に言ってもね、例えばクリントン夫人が書かれた本が「村が子どもを育てる」というタイトルなんです。地域社会の絆なんですよ。どこの民族やどこの国でも、決して一人で子育てはできないんです。人間って言うのは基本的に社会的な動物ですから、そこでみんなが絆を張りめぐらしているということがすごく重要だって思いますね。

だから、地域に高齢者が多いって言うことは一見困難なことが多いように見えるかもわかりませんが、今の若いお母さん方の子育てにアド

バイスしたりサポートしていくことで、高齢者自身が精神的に健康になつていたり、「私もボケてもいられないよ」と生き生きされてきたら、それは地域の活性化につながっていくのではないのでしょうか。予防医学的にも効果的で医療費は節約できるし、ほんとにみんなが幸せな気分になれますよ。

こういうことから考えると、やっぱり2012年にふさわしい地域づくりっていうのは、子育てを中心にして何ができるかって考えると、無数に広がってくるよな気がしますね。それも行政の指示を待つのではなくて、米原市民一人ひとりが「私はこんなことができたい」と、「私はこんな動きをしよう」と、

どんどん提案したり思いつくことで動いていくっていうのが現代的な市民の生き方だろうと思うんですよ。そして、それに後から行政が「こん

地域づくりは子育てを中心に 考えると無数に広がる！ 市民の提案や行動で エネルギーな米原市に！

なバックアップができますよ」って応援していくみたいな。こうなるとき、本当に活力のあるエネルギーな米原市になるんじゃないかと期待したいですね。



米原市では、
子育て・高齢

者対策・福祉などすべての中の基本は絆にあるということ、今まで取り組んできましたけど、特に防災の面を強化しながら本年も地域の絆づくりを重点的に進めたいと思っています。

そして、子育ての点では、高齢者が子育てに関わる機会をもっと増やしていきたいと思っています。また、未就園児を持つお母さんの情報交換の場となる子育て支援センター

をさらに充実していきたいと考えています。

こういったことを通じてお互いが交流し合うことで、高齢者も元気をもらせるし、小さい子どもたちも自宅におじいさん・おばあさんがおら

れなくても、良い関係や絆が育まれると期待します。
このような思いで、本年も取り組んでいきたいと思っています。



尾木ママ オフィシャルブログ「オギ☆ブロ」 <http://ameblo.jp/oginaoki/>

尾木ママが
ふるさと米原に
やってくる！

講演会情報は次ページで

